

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究 (第2報)

### 対 人 関 係

斉藤浩子, 石川尚子, 大久保みたま, 大関政康\*,  
大竹美登利, 唐沢恵子, 川端博子, 高崎禎子,  
武田紀久子, 林 隆 子\*\*

(都立立川短期大学, \* 東京家政大学家政学部, \*\* 信州大学教育学部)

平成2年11月29日受理

### The Lifestyles of the Elderly in the Western Tama Area, Tokyo (Part 2)

#### Personal Network of the Elderly

Hiroko SAITO, Naoko ISHIKAWA, Mitami OKUBO, Masayasu OZEKI,\*  
Midori OTAKE, Keiko KARASAWA, Hiroko KAWABATA, Sadako TAKASAKI,  
Kikuko TAKEDA and Takako HAYASHI\*\*

*Tachikawa College of Tokyo, Akishima, Tokyo 196*

*\* Faculty of Home Economics, Tokyo Kasei University, Itabashi-ku, Tokyo 173*

*\*\* Faculty of Education, Shinshu University, Nagano 380*

The following are the results of an investigation of personal networks of the elderly gathered from members of the Senior Citizen's Club in Ōme City, Tokyo.

- (1) The frequencies of contacts with grown-up children living on their own, neighbors, close friends and relatives were surveyed.
- (2) The most frequent contacts were found with neighbors, followed by close friends, grown-up children living on their own and relatives.
- (3) Males without spouses show a tendency towards less frequent contact with children who live on their own and relatives, however, they have close relationship with neighbors.
- (4) Females have contacts with their close friends more often than males. Both males and females without spouses have more frequent contacts than people with spouses.
- (5) Among the people who make up personal networks of the elderly, excluding their own children, the most chosen by the aged were peer members of the Senior Citizen's Club, followed by neighbors, relatives, friends with same hobbies, siblings, school-mates and friends from their place of work.
- (6) Most people seemed to be satisfied with their personal network.

(Received November 29, 1990)

**Keywords:** the elderly 高齢者, personal network 対人関係, neighbors 近所の人, close friends 親しい友人, grown-up children living on their own 別居の子.

#### 1. 緒 言

本報告は東京都青梅市在住の70歳以上の高齢者の生活に関する総合調査のうち、対人関係の研究を目的としたものである。

平均寿命の伸びとともに高齢期の過ごし方についての

関心が高まっている。定年後あるいは子育て後の長い年月を幸福に送るために、人々は中年期からの健康の増進や維持に心がけたり、経済的基盤の確保に関心を寄せ始めている。たしかに、健康も経済的基盤も重要である。しかし健康な身体と経済的余裕だけでは十分とはいえない

いであろう。幸福な高齢期をおくるためには、個人を取り巻く対人関係が有効な支援機能をもっていることが必要である。とくに、時間はあるが、体力や経済力が低下しつつある高齢者にとって、対人関係は重要な意味をもつであろう。高齢者にとって、家族を始め周囲の人々とのかわりかは、精神的な安定感に寄与する重要な役割を果たしていると思われる。高齢者は毎日の暮らしのなかでどのような人々と、どのようなつきあい方をしているのであろうか。どのような対人ネットワークをもっているものであろうか。

戦前のわが国の家制度のもとでは、高齢者は、子ども夫婦や孫と同居することを常態としていたが、今日では高齢期の人々の居住形態も多様化している。子ども夫婦や孫と暮らしている人々もいれば、夫婦だけで住んでいるものもあり、ひとり暮らしをしている人もいる。また、最近では自分たちの意志で、有料老人ホームでの生活を選ぶ人々も増えている。統計的にみると三世代家族の割合は低下し、単独世帯の占める割合が多くなっている。1965年においては三世代家族の占める割合は27.3%（厚生省・厚生行政基礎調査）であったのに対して、1988年には14.0%（国民生活基礎調査）と低下している。単独世帯のうち、高齢者のひとり暮らしの世帯も増加している（1975年においては8.8%であったが、1985年には12.3%である。厚生行政基礎調査）。

本調査の対象地域である東京都青梅市では高齢者は子どもと同・隣居するものが多いが、第1報<sup>1)</sup>で述べたように、われわれの調査対象者も約8割が子どもと同・隣居しており、なかでも既婚の子どもとの同・隣居が62%を占めている。三世代同居は高齢者にとって重要なサポート源となりうるが、既婚・未婚の子どもとの家族と同居している場合、高齢者は別居の子どもやその家族とはどの程度の交流があるのだろうか。子ども以外の人々とのつきあいはどうであろうか。地域の人々との結びつきはどうであろうか。また、子どもと別居している場合はどうであろうか。

これまでの老年期の対人関係の研究はほとんどが家族との関係であって、友人関係を中心に研究したものはあまり多くない。確かにこれまでの高齢期のすごしかたは、家族を中心とするものが多かったといえよう。しかし、平均寿命が伸びて、定年後あるいは子育て後の年月が長くなった現在、まだまだ健康な社会生活を営むことができる高齢者が増えている。各地で高齢者の社会的活動として、シルバー人材センターや老人クラブの活動をはじめとする各種の活動が報告されており、これからはまず

まず高齢者の社会的活動が盛んになっていくことが予想される。少子化の傾向がこれからも続き、今後も現在のように企業に転職がつきものであるならば、高齢者が子どもの家族とともに住む形態は少なくならざるをえない。そのとき、高齢者にとって経験や話題を共有する同年輩の友人とのかかわりは、ますます重要なものになるであろうし、日常的に顔を合わせることの多い近隣の人々との関係も大きな意味をもつものになると思われる。高齢者を支える人的資源として、家族は中心的な存在であるが、今後は家族以外の対人関係も重要性を増すことであろう。

青梅市は古くから発達した町であり、民俗資料<sup>2)</sup>によって江戸時代の五人組の制度の名残を知ることできる。われわれの調査対象者の約半数は戦前からの青梅在住者であり、1970年以降の青梅市居住者は2割強にすぎない。このことから、青梅市の高齢者の交友関係や近隣関係は、新しく発展した都市部に住む高齢者のそれとはちがって、長年にわたるつきあいの歴史があるため、強い結びつきがみられるのではないかと予想される。このような特色をもつ地域で、高齢者はどのような人々とどのような交流をしているのであろうか。

これまで高齢者の対人関係について、いくつかの調査や研究報告がなされているが、特定の地区に居住する高齢者の、生活全般にわたって行われた調査はあまり多くはない。そこでわれわれは青梅市の高齢者を対象に、その生活のいくつかの側面についての共同研究「東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究」を計画し実施した。その成果を（第1報）調査方法と生活時間<sup>1)</sup>、（第2報）対人関係、（第3報）食生活<sup>3)</sup>、（第4報）衣生活<sup>4)</sup>として報告する予定である。本報告はその第2報であり、青梅市の高齢者の対人関係いわば「つきあい」の実態を明らかにすることを目的としている。

## 2. 調査対象および調査方法

青梅市の老人クラブに加入している70歳以上の高齢者の約1割にあたる708人を対象に、その対人関係について聞き取り調査を行った（調査対象の属性の詳細は第1報<sup>1)</sup>を参照）。この調査では対人関係のターゲットとして、別居の子どもとその家族（以下、別居子と省略）、親戚、親しい友人、近所の人をとりあげた。別居子、親戚および親しい友人については、交流の形態および頻度として「会って親しく話をする回数」、「手紙のやりとりの回数」、「電話の回数」を聞いたが、「手紙」については頻度が低いため、結果の報告は省略する。近所の人と

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究 (第2報)

のつきあいについては、「親しく話をする回数」、「家へ上がってお茶を飲む回数」、「もののやりとりの有無」、「品物の預かり合いの有無」を聞いた。以下にこれらの人々とのかかわりを、配偶者の有無、同・別居の別、居住時期、健康状態などの条件について分析した結果を報告する。つきあいの頻度については、「毎日」、「週に2, 3回」、「週に1回」、「月に2, 3回」、「月に1回」、「年に数回」、「ほとんどない」、「その他」の8選択肢を設定した。また、高齢者の全体的な対人関係を知るために、子どもとその家族以外で親しくしている人についての質問を設けた。

## 3. 結果と考察

## (1) 別居の子とその家族とのつきあい (表1-1)

## 1) 会って親しく話をする回数

1987年に報告された「老人の生活と意識」<sup>5)</sup> (総務庁) は、日本、タイ、アメリカ、デンマーク、イタリアの5カ国についての国際比較調査であり、高齢者の生活全般にわたって調査をしたものであるが、家族とのかかわりや周囲の人々とのつきあい方についても聞いているので、われわれの調査 (以下、青梅調査とよぶ) と比較することができる。この調査のうち、日本での調査結果 (全国を調査対象としている) をみると、別居子と週1回以上の交流をもっている高齢者は33.5%であるから、青梅調査では38.6%であり、やや多い傾向がみられる。調査対象者を70歳以上75歳未満 (364名)、75歳以上80歳未満 (229名)、80歳以上 (112名) の3段階に分けて各年齢段階の比較を行ったが年代による差はみられなかった。

i) 配偶者の有無による差: 男女それぞれについて、配偶者の有無によって別居子と会って話をしている交流の実態をみた。「毎日」、「週に2, 3回」および「週に1回」を含めて「週に1回以上」とすると男性では有配偶者が41.8%であるのに対して、無配偶者は17.7%であり、明らかに有配偶者のほうが交流が多い。女性では有配偶者が43.1%、無配偶者が37.3%であり、やはり有配偶者の交流が多いが差は男性ほどではない。無配偶者については性差をみると男性に比べて女性のほうが交流が多い。予想では無配偶者のほうが子どもと会って話すことが多いと思われたが、実際には逆の傾向がみられた。とくに男性についてはこの傾向は顕著であった。配偶者のない男性に、別居子との交流の低下がみられるのはなぜであろうか。別居子との地理的距離や所要時間についても聞く必要があると思われる。

ii) 同居・別居による差: 青梅市の高齢者に子どもとの同・隣居が多いことは第1報に述べたとおりであるが、このことは別居子との交流にどのように影響しているのだろうか。

ここで、子どもの未婚・既婚にかかわらず子どもと同居しているものと、子どもと別居しているものとを比較してみよう。男性では同居群 (264名) は別居子と「週に1回以上」会っているものが44.3%、別居群 (72名) は41.7%であり、大きな差はみられない。一方、女性では同居群 (299名) で、別居子と「週に1回以上」会っているものは52.1%、別居群 (48名) では53.1%となっており、女性においても同居と別居による差はみられない。しかし、全体的に男性と女性を比較すると「週に1回以上」の交流は女性のほうが多く、女性のほうが別居子との交流が多い。

では、同居する子どもの未・既婚によって、状況はどう変わるであろうか。女性は既婚の子どもと同居しているものは、別居子と会って話す回数が少ないという点で、男性とは異なった傾向がみられる。すなわち「週に1回以上」会うものの比率を見ると、既婚子と同居のもの (255名) は38.4%、子どもの家族と別居のもの (48名) は52.1%であった。

女性の場合、同居することによって生活上の欲求の解消や情緒の安定が図られているということなのか、それとも既婚の子どもと同居することによって気兼ねや遠慮が働くのであろうか。なぜこのような結果になっているのかを知るためには、さらに詳細な聞き取り調査が必要と思われる。

岡村<sup>6)</sup>は老人と別居子との往来頻度について同居サンプルのうち別居子と毎日会っているものが6.1%であるのに対して、別居サンプルでは25%にのぼることを報告している。別居サンプルの数値は青梅調査の数値 (同居群14.5%、別居群11.3%) と比べると著しく高いが、これは岡村の調査が複数の別居子との交流の資料であるのに対して、われわれの調査が調査対象者に「特定の別居子」を想定してもらっての、いわば1対1の交流の回答であるためである。

iii) 健康状態による差: 健康状態によって別居子と会う回数に差がみられるであろうか。われわれの調査では健康状態を、「たいへんよい」、「ふつう」、「弱い」 (それぞれ、98名、455名、54名であった) の3段階に分けて聞いたが、別居子と「週に1回以上」会うものの割合は、「たいへんよい」群が38.8%、「ふつう」群が38.2%、「弱い」群が48.2%であり、自分の健康状態を「弱い」

表 1-1. 別居子とその家族とのつきあい

| 別居子とその家族とのつきあい  |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
|-----------------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|--------|----------|-------|
|                 | 毎 日      | 週 2 ～ 3 回 | 週 1 回     | 月 2 ～ 3 回 | 月 1 回    | 年に数回      |          | ほとんどない |          | 無回答   |
|                 | 人 (%)    | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)    | 人 (%)     | 人 (%)    | 人 (%)  | 人 (%)    | 人 (%) |
| 会って親しく話をする回数    |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| 全体 (708)        | 83(11.7) | 103(14.5) | 88(12.4)  | 100(14.1) | 83(11.7) | 132(18.6) | 44(6.2)  | 1(0.1) | 74(10.5) |       |
| 男性 (345)        | 44(12.8) | 46(13.3)  | 43(12.5)  | 45(13.0)  | 40(11.6) | 57(16.5)  | 29(8.4)  | 1(0.3) | 40(11.6) |       |
| 女性 (363)        | 39(10.7) | 57(15.7)  | 45(12.4)  | 55(15.2)  | 43(11.8) | 75(20.7)  | 15(4.1)  |        | 34(9.4)  |       |
| 男性              | 40(13.5) | 43(14.5)  | 41(13.8)  | 38(12.8)  | 29(9.8)  | 48(16.2)  | 26(8.8)  | 1(0.3) | 31(10.4) |       |
| 有配偶 (297)       | 4(8.9)   | 2(4.4)    | 2(4.4)    | 6(13.3)   | 11(24.4) | 8(17.8)   | 3(6.7)   |        | 9(20.0)  |       |
| 無配偶 (45)        | 14(11.4) | 24(19.5)  | 15(12.2)  | 21(17.1)  | 13(10.6) | 22(17.9)  | 5(4.1)   |        | 9(7.3)   |       |
| 女性              | 25(11.1) | 30(13.3)  | 29(12.9)  | 31(13.8)  | 29(12.9) | 49(21.8)  | 8(3.6)   |        | 24(10.7) |       |
| 有配偶 (225)       | 6(12.2)  | 10(20.4)  | 9(18.4)   | 6(12.2)   | 4(8.2)   | 9(18.4)   | 4(8.2)   | 1(2.0) | 9        |       |
| 未婚の子と同居         | 25(15.3) | 21(12.9)  | 24(14.7)  | 22(13.5)  | 26(16.0) | 32(19.6)  | 13(8.0)  |        | 22       |       |
| 既婚の子と同居         | 4(22.2)  | 2(11.1)   | 1(5.6)    | 4(22.2)   | 2(11.1)  | 3(16.7)   | 2(11.1)  |        | 3        |       |
| 未・既婚の子と同居       | 8(11.9)  | 11(16.4)  | 9(13.4)   | 11(16.4)  | 8(11.9)  | 13(19.4)  | 7(10.4)  |        | 5        |       |
| 別居              |          | 1(100)    |           |           |          |           |          |        | 1        |       |
| 不明              |          |           |           |           |          |           |          |        | 1        |       |
| 女性              | 5(16.1)  | 9(29.0)   | 4(12.9)   | 5(16.1)   | 4(12.9)  | 3(9.7)    | 1(3.2)   |        | 3        |       |
| 未婚の子と同居         | 25(10.9) | 34(14.8)  | 29(12.7)  | 40(17.5)  | 32(14.0) | 59(25.8)  | 10(4.4)  |        | 26       |       |
| 既婚の子と同居         | 1(10.0)  | 3(30.0)   | 2(20.0)   | 1(10.0)   | 1(10.0)  | 3(30.0)   | 3(30.0)  |        | 1        |       |
| 未・既婚の子と同居       | 5(10.6)  | 11(23.4)  | 9(19.1)   | 5(10.6)   | 4(8.5)   | 10(21.3)  | 3(6.4)   |        | 1        |       |
| 別居              | 1(50.0)  |           |           | 1(50.0)   |          |           |          |        | 1        |       |
| 不明              |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| 健康状況別           |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| たいへんよい (98)     | 9(9.2)   | 21(21.4)  | 8(8.2)    | 14(14.3)  | 15(15.3) | 17(17.3)  | 4(4.1)   | 1(1.0) | 9(9.2)   |       |
| ふつう (455)       | 49(10.8) | 63(13.8)  | 62(13.6)  | 57(12.5)  | 54(11.9) | 88(19.3)  | 35(7.7)  |        | 47(10.3) |       |
| 弱い (54)         | 13(24.1) | 8(14.8)   | 5(9.3)    | 5(9.3)    | 3(5.6)   | 8(14.8)   | 2(3.7)   |        | 10(18.5) |       |
| 居住時期            |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| 戦前 (341)        | 53(15.5) | 52(15.2)  | 47(13.8)  | 46(13.5)  | 37(10.9) | 63(18.5)  | 19(5.6)  |        | 24(7.0)  |       |
| 1945～1964 (165) | 12(7.3)  | 24(14.5)  | 20(12.1)  | 28(17.0)  | 20(12.1) | 31(18.8)  | 10(6.1)  |        | 20(12.1) |       |
| 1965～1984 (160) | 16(10.0) | 22(13.8)  | 17(10.6)  | 19(11.9)  | 19(11.9) | 32(20.0)  | 11(6.9)  | 1(0.6) | 23(14.4) |       |
| 1985～ (30)      | 1(3.3)   | 4(13.3)   | 2(6.7)    | 6(20.0)   | 5(16.7)  | 5(16.7)   | 3(10.0)  |        | 4(13.3)  |       |
| 電話での交流          |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| 全体 (708)        | 49(6.9)  | 133(18.8) | 109(15.4) | 151(21.3) | 79(11.2) | 50(7.1)   | 64(9.0)  | 1(0.1) | 72(10.2) |       |
| 男性 (345)        | 24(7.0)  | 56(16.2)  | 49(14.2)  | 71(20.6)  | 43(12.5) | 26(7.5)   | 39(11.3) | 1(0.3) | 36(10.4) |       |
| 女性 (363)        | 25(6.9)  | 77(21.2)  | 60(16.5)  | 80(22.0)  | 36(9.9)  | 24(6.6)   | 25(6.9)  |        | 36(9.9)  |       |
| 男性              | 21(7.1)  | 51(17.2)  | 46(15.5)  | 65(21.9)  | 40(13.5) | 19(6.4)   | 27(9.1)  | 1(0.3) | 27(9.1)  |       |
| 有配偶             | 2(4.4)   | 4(8.9)    | 3(6.7)    | 5(11.1)   | 3(6.7)   | 7(15.6)   | 12(26.7) |        | 9(20.0)  |       |
| 無配偶 (45)        | 11(8.9)  | 28(22.8)  | 19(15.4)  | 28(22.8)  | 11(8.9)  | 8(6.5)    | 10(8.1)  |        | 8(6.5)   |       |
| 有配偶             | 13(5.8)  | 44(19.6)  | 38(16.9)  | 50(22.2)  | 24(10.7) | 14(6.2)   | 15(6.7)  |        | 27(12.0) |       |
| 無配偶             |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |
| 男性              | 2(3.8)   | 11(21.2)  | 8(15.4)   | 7(13.5)   | 9(17.3)  | 6(11.5)   | 8(15.4)  | 1(1.9) | 6        |       |
| 未婚の子と同居         | 16(9.8)  | 24(14.7)  | 21(12.9)  | 41(25.2)  | 21(12.9) | 17(10.4)  | 23(14.1) |        | 22       |       |
| 既婚の子と同居         | 1(5.6)   | 2(11.1)   | 8(44.4)   | 2(11.1)   | 1(5.6)   |           | 4(22.2)  |        | 3        |       |
| 未・既婚の子と同居       | 3(4.4)   | 18(26.5)  | 11(16.2)  | 19(27.9)  | 11(16.2) | 3(4.4)    | 3(4.4)   |        | 4        |       |
| 別居              | 1(100)   |           |           |           |          |           |          |        | 1        |       |
| 不明              |          |           |           |           |          |           |          |        | 1        |       |
| 女性              | 4(12.9)  | 7(22.6)   | 4(12.9)   | 8(25.8)   | 3(9.7)   | 2(6.5)    | 3(9.7)   |        | 3        |       |
| 未婚の子と同居         | 13(5.7)  | 50(21.9)  | 42(18.4)  | 64(28.1)  | 25(11.0) | 16(7.0)   | 18(7.9)  |        | 27       |       |
| 既婚の子と同居         | 1(11.1)  | 3(33.3)   | 2(22.2)   | 5(10.9)   | 2(22.2)  | 1(11.1)   | 1(11.1)  |        | 1        |       |
| 未・既婚の子と同居       | 5(10.9)  | 14(30.4)  | 8(17.4)   | 5(10.9)   | 5(10.9)  | 5(10.9)   | 4(8.4)   |        | 2        |       |
| 別居              | 1(50.0)  |           |           | 1(50.0)   |          |           |          |        | 1        |       |
| 不明              |          |           |           |           |          |           |          |        |          |       |

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究 (第2報)

と答えたもののほうが別居子との交流が多い。「弱い」と答えたものは健康上の不安があるため、積極的に別居子と連絡を取り合うことが多いのであろうか。

iv) 居住時期による差：居住時期を次の4期に分けて検討した。すなわち戦前から(341名)、昭和20～39年から(165名)、昭和40～59年から(160名)、昭和60年以降(30名)である。

「週に1回以上」の交流をみると、戦前からのもの44.5%、昭和20～39年からのもの33.9%、昭和40～59年のもの34.4%、昭和60年以降のもの23.3%であり、戦前からの居住者が他の群より別居子と会って話す頻度が高い。青梅調査では別居子との地理的距離や所要時間を聞いていないが、おそらく古くからの居住者が子どもと比較的近距離に住んでいるのに対して、新しく青梅市の住民になった人々は、子どもと離れて住んでいるものが多いのではないかと推測される。

## 2) 電話での交流

手紙にくらべて電話でのコミュニケーションは、相手の声を聞くことができるので、相手の様子や健康状態がすぐわかるというメリットがある。手紙のようにどんな文章を書こうかと頭を悩ませる必要もない。受話器を取り上げてダイヤルを回す、あるいはボタンを押せばすぐ相手と話せる便利な道具である。調査対象全体では「週に1回以上」電話で話しているものが41.1%にもものぼっており、「会って話す」の38.6%とほぼ同じくらいであり、別居子との交流の頻度の高さを示している。

i) 配偶者の有無による差：男女それぞれについて、配偶者の有無によって別居の子との電話による交流の実態をみた。男性についてみると「週に1回以上」のものには有配偶者が39.8%、無配偶者が20.0%であり、「ほとんどない」と答えたものは有配偶者が9.1%であるのに対して、配偶者のないものは26.7%と多く、明らかに有配偶者のほうが別居子との電話での交流が多い。次に女性についてみると全体的に男性より多いが、「週に1回以上」のものには有配偶者が47.1%、無配偶者が42.3%、「ほとんどない」ものには有配偶者8.1%、無配偶者6.7%と配偶者の有無による差は男性ほど大きくない。

配偶者がいない高齢者男性は、女性とちがって別居子と会って話すことだけでなく電話をかけることも少なくなる傾向があるようだ。

ii) 同・別居による差：次に同居か別居かによる差をみてみよう。男性は「週に1回以上」電話で話すものは、同居している場合39.9%、別居の場合は47.1%であり別居群が頻度が高い。一方、女性では同居の場合47.0%、

別居の場合58.7%であり、かなり別居のほうが比率が高い。同居群が別居子との電話が少ないのは「会って話す」交流の場合と同様に、子どもとの同居によって情緒的支持が得られているためであるのか、あるいは同居の子どもへの遠慮があるためかはさらに詳細な聞き取り調査が必要と思われる。

なお、電話による交流には居住時期による差はみられなかった。

iii) 健康状態による差：別居子との電話での交流は健康状態による差はみられなかった。しかし、高齢になると聴力に問題が生じることが多い。われわれは聴力について「若いころと同じ」と思うか「やや遠い」と感じるかを聞き、電話の回数との関連をみた(若いころと同じ261名、やや遠い342名、補聴器使用27名)。耳が遠くなると電話で話す回数が少なくなるのではないかと予想されたが、別居の子どもとの電話の頻度は聴力の差による影響を受けていない。

## (2) 親戚とのつきあい (表1-2)

## 1) 会って親しく話をする回数

親戚と会う回数で最も多いのは「年に数回」で30.5%である。しかし、「週に1回以上」も19.7%、「月に2, 3回」が13.1%、「月に1回」が13.8%である。青梅地区では親戚が比較的近距离に住んでいるため、交流の度合いが高いのではないと思われる。年代別にみると80歳以上の層では「毎日会う」が10.7%と多頻度であるが(全体では4.8%)、この年齢層では「ほとんどない」も25.9%(全体では16.5%)と多くなり、2極分化する傾向がみられる。配偶者の有無別、性別による差はみられなかった。

同・別居別による差はあまりみられなかった。

## 2) 電話での交流

全体的にみると、親戚との電話は「年に数回」が最も多く(22.9%)、次に多いのが「月に2, 3回」であり(20.3%)、性別による差はない。

i) 配偶の有無による差：週に1回以上電話するものに有配偶男性では21.2%、無配偶男性では19.9%とほとんど差はないが、「月に2, 3回」の電話は有配偶男性が21.2%であるのに対して、無配偶男性では11.1%と少なくなる。また無配偶男性では「ほとんどない」ものが20%になるが、有配偶男性では9.4%にすぎない。有配偶男性のほうが親戚との電話での交流が多いといえよう。ここでも無配偶男性の孤立傾向がみられる。

女性では週1回以上電話するものに有配偶者が22.7%、無配偶者が20.4%、「月に2, 3回」の者が有配偶者で

表 1-2. 親戚とのつきあいと親しい友人との交流

| 親戚とのつきあいと親しい友人との交流 |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
|--------------------|-----------|--|-----------|--|----------|--|-----------|--|-----------|--|-----------|
|                    | 毎 日       |  | 週 2～3 回   |  | 週 1 回    |  | 月 2～3 回   |  | 月 1 回     |  | 無回答       |
|                    | 人 (%)     |  | 人 (%)     |  | 人 (%)    |  | 人 (%)     |  | 人 (%)     |  | 人 (%)     |
| 親戚と会って話をする         |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 全体 (708)           | 34(4.8)   |  | 64(9.0)   |  | 42(5.9)  |  | 93(13.1)  |  | 98(13.8)  |  | 216(30.5) |
| 男性 (345)           | 19(5.5)   |  | 28(8.1)   |  | 20(5.8)  |  | 45(13.0)  |  | 47(13.6)  |  | 102(29.6) |
| 女性 (363)           | 15(4.1)   |  | 36(9.9)   |  | 22(6.1)  |  | 48(13.2)  |  | 51(14.0)  |  | 114(31.4) |
| 年齢別                |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 70歳以上75歳未満         | 18(4.9)   |  | 34(9.3)   |  | 22(6.0)  |  | 42(11.5)  |  | 58(15.9)  |  | 112(30.8) |
| 75歳以上80歳未満         | 4(1.7)    |  | 22(9.6)   |  | 18(7.9)  |  | 39(17.0)  |  | 25(10.9)  |  | 74(32.3)  |
| 80歳以上95歳未満         | 12(10.7)  |  | 8(7.1)    |  | 2(1.8)   |  | 11(9.8)   |  | 14(12.5)  |  | 30(26.8)  |
| 親戚との電話             |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 全体 (708)           | 21(3.0)   |  | 78(11.0)  |  | 54(7.6)  |  | 144(20.3) |  | 133(18.8) |  | 162(22.9) |
| 男性 (345)           | 10(2.9)   |  | 39(11.3)  |  | 24(7.0)  |  | 68(19.7)  |  | 72(20.9)  |  | 72(20.9)  |
| 女性 (363)           | 11(3.0)   |  | 39(10.7)  |  | 30(8.3)  |  | 76(20.9)  |  | 61(16.8)  |  | 90(24.8)  |
| 男性                 | 8(2.7)    |  | 34(11.4)  |  | 21(7.1)  |  | 63(21.2)  |  | 66(22.2)  |  | 58(19.5)  |
| 有配偶                | 2(4.4)    |  | 5(11.1)   |  | 2(4.4)   |  | 5(11.1)   |  | 5(11.1)   |  | 13(28.9)  |
| 無配偶                | 3(2.4)    |  | 16(13.0)  |  | 9(7.3)   |  | 30(24.4)  |  | 21(17.1)  |  | 28(22.8)  |
| 女性                 | 7(3.1)    |  | 20(8.9)   |  | 19(8.4)  |  | 45(20.0)  |  | 36(16.0)  |  | 59(26.2)  |
| 無配偶                |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 健康状況別              |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| たいへんよい             | 6(6.1)    |  | 17(17.3)  |  | 7(7.1)   |  | 18(18.4)  |  | 10(10.2)  |  | 18(18.4)  |
| ふつう                | 13(2.9)   |  | 46(10.1)  |  | 34(7.5)  |  | 94(20.7)  |  | 92(20.2)  |  | 104(22.9) |
| 弱い                 | 1(1.9)    |  | 5(9.3)    |  | 3(5.6)   |  | 11(20.4)  |  | 12(22.2)  |  | 12(22.2)  |
| 親しい友人と会って話をする      |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 全体 (708)           | 141(19.9) |  | 191(27.0) |  | 92(13.0) |  | 62(8.8)   |  | 41(5.8)   |  | 68(9.6)   |
| 男性 (345)           | 50(14.5)  |  | 80(23.2)  |  | 50(14.5) |  | 33(9.6)   |  | 27(7.8)   |  | 45(13.0)  |
| 女性 (363)           | 91(25.0)  |  | 111(30.6) |  | 42(11.6) |  | 29(8.0)   |  | 14(3.9)   |  | 23(6.3)   |
| 男性                 | 41(13.8)  |  | 70(23.6)  |  | 41(13.8) |  | 31(10.4)  |  | 23(7.7)   |  | 41(13.8)  |
| 有配偶                | 9(20.0)   |  | 9(20.0)   |  | 8(17.8)  |  | 2(4.4)    |  | 4(8.9)    |  | 4(8.9)    |
| 無配偶                | 22(17.9)  |  | 47(38.2)  |  | 15(12.2) |  | 11(8.9)   |  | 3(2.4)    |  | 11(8.9)   |
| 女性                 | 65(28.9)  |  | 61(27.1)  |  | 23(10.2) |  | 18(8.0)   |  | 11(4.9)   |  | 10(4.4)   |
| 無配偶                |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 居住時期               |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 戦前～                | 78(22.9)  |  | 92(27.0)  |  | 52(15.2) |  | 24(7.0)   |  | 21(6.2)   |  | 32(9.4)   |
| 1945～1964          | 22(13.3)  |  | 49(29.7)  |  | 19(11.5) |  | 18(10.9)  |  | 8(4.8)    |  | 15(9.1)   |
| 1965～1984          | 34(21.3)  |  | 43(26.9)  |  | 16(10.0) |  | 12(7.5)   |  | 8(5.0)    |  | 17(10.6)  |
| 1985～              | 1(3.3)    |  | 7(23.3)   |  | 5(16.7)  |  | 4(13.3)   |  | 4(13.3)   |  | 3(10.0)   |
| 親しい友人との電話          |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |
| 全体 (708)           | 56(7.9)   |  | 38(19.5)  |  | 73(10.3) |  | 96(13.6)  |  | 84(11.9)  |  | 77(10.9)  |
| 男性 (345)           | 23(6.7)   |  | 47(13.6)  |  | 35(10.1) |  | 51(14.8)  |  | 43(12.5)  |  | 52(15.1)  |
| 女性 (363)           | 33(9.1)   |  | 91(25.1)  |  | 38(10.5) |  | 45(12.4)  |  | 41(11.3)  |  | 25(6.9)   |
| 男性                 | 17(5.7)   |  | 40(13.5)  |  | 32(10.8) |  | 46(15.5)  |  | 40(13.5)  |  | 47(15.8)  |
| 有配偶                | 5(11.1)   |  | 7(15.6)   |  | 2(4.4)   |  | 5(11.1)   |  | 3(6.7)    |  | 5(11.1)   |
| 無配偶                | 9(7.3)    |  | 39(31.7)  |  | 13(10.6) |  | 14(11.4)  |  | 15(12.2)  |  | 14(11.4)  |
| 女性                 | 22(9.8)   |  | 44(19.6)  |  | 24(10.7) |  | 31(13.8)  |  | 25(11.1)  |  | 11(4.9)   |
| 無配偶                |           |  |           |  |          |  |           |  |           |  |           |

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究（第2報）

24.4%，無配偶者で20.0%，「ほとんどない」ものが、有配偶者で10.6%，無配偶者で13.8%であり、女性の場合は配偶者の有無による差は大きくない。同・別居別による差は見られなかった。

ii) 健康状態による差：健康状態が「たいへんよい」ものが週に1回以上電話をする頻度は30.5%，「ふつう」のものが20.5%，「弱い」ものは16.8%であり、健康状態がよいもののほうが親戚に電話をかける割合が高い。

### (3) 親しい友人との交流（表1-2）

定年を迎え、子どもが巣立ったあとの高齢者にとって、友人や近隣の人の存在は重要なサポート源であろう。現在、三世帯同居の家族が減少しつつあるが、子どもの家族との同居が8割を占めている本調査対象者の生活では、友人との交流の頻度はどうであろうか。

#### 1) 会って話をする回数

親しい友人と会って話している回数は「週に2、3回」のものが29.1%で最も多い。「毎日」が21.5%，「週に1回」と答えたものが14.0%である。「毎日」も含めて「週に1回以上」とすると64.6%になり、友人との交流の頻度は別居子との交流の頻度（38.6%）より高い。おそらく友人との地理的な近接が交流頻度の高さと結びついていると思われる。

東京都葛飾区鎌倉地区在住の高齢者を対象に友人関係の研究を行った前田<sup>7)</sup>の調査では、友人の家までの所要時間を聞いているが、5分未満のものが40%，6分から10分までが15%，11分から30分までが17%と地理的に近接している友人が多い。青梅調査では友人の家までの所要時間を聞いていないが、地区ごとの老人クラブメンバーの調査であるため、近接した距離に住んでいると考えられる。前田の調査では「毎日」会っているものが29%，「週に1回以上」のものが31%である。「毎日」を含めて「週に1回以上」とすると60%になり、青梅調査の結果とほとんど同じ頻度となる。葛飾区も青梅市も古くから発達した地区であり、高齢者の友人に対する意識や態度にはなんらかの共通性があるのかもしれないが、比較のためには他の地区の高齢者についての資料が必要である。

青梅調査では年齢層による差はないが、性差があり、女性のほうが頻繁に友人と会っている。たとえば「毎日」会って話しているものは女性では26.7%，男性では15.9%，「週に2、3回」のものが女性では32.6%，男性では25.4%であった。

i) 配偶者の有無による差：配偶者の有無によって、友人と会う頻度に差があるかをみよう。「毎日」会って

いるものの割合は、男性で配偶者があるものは13.8%，ないものは20.0%，女性で配偶者があるものは17.9%，ないものは28.9%であり、男女とも配偶者のないもののほうが多い。「週1回以上」についてみると男性では有配偶者は51.2%，無配偶者は57.8%であり、無配偶者のほうが比率が高いが、女性では有配偶者68.3%，無配偶者66.2%であり、女性のほうは配偶者の有無による差はみられない。同・別居別による差はみられない。

ii) 居住時期による差：「週に1回以上」の頻度を居住時期別にみると、戦前からのもの61.5%，昭和20～39年からのもの54.5%，昭和40年からのもの58.2%，昭和60年以降のもの43.3%となり、居住時期の長さが親しい友人との交流とかかわりがあることを示している。

#### 2) 電話による交流

親しい友人との電話の回数は「週に2、3回」のものが最も多く19.5%である。電話の回数には性差があり「毎日」は男性6.7%，女性9.1%であるが、「毎日」を含めて「週に1回以上」として男女を比較すると、男性30.4%，女性44.7%となり、女性の比率が高い。「ほとんどない」が男性18.3%，女性19.0%と多いのは、頻繁に会っているため電話の必要がないものがあるためと考えられる。

i) 配偶者の有無による差：配偶者の有無別にみると、「毎日」電話をするものは無配偶者にやや多いが、「週1回以上」についてみると、有配偶男性30.0%，無配偶男性31.1%で男性では配偶者の有無による差はないが、女性では有配偶者が49.6%，無配偶者が40.1%となり、有配偶者のほうが電話をするものの比率が高い。同・別居による差はみられない。

#### 3) 親しい友人の数（表2）

青梅調査の対象者は親しい友人を何人ぐらいもっているのであろうか。「1人」「2～3人」「4～5人」「大勢いる」「とくにない」の5選択肢からの結果を見ると、最も多いのが「大勢いる」の62.7%である。つぎが「4～5人」19.7%，「2～3人」15.0%であった。性差はみられないが、年齢層による差があり、70～75歳および75～80歳の層では、「友人が大勢いる」と答えた人が6割を超えるのに対して、80歳以上では「2～3人」が21.4%，「4～5人」が23.2%となり、「大勢いる」は48.2%と半数を割っている。配偶者の有無による差はみられない。

青梅調査の結果は老人クラブに参加しているものを対象としていること、そのなかでも70歳以上が調査の対象であること、さらに老人クラブのメンバーと同席した

表 2. 親しい友人の数

|          |            | 親しい友人の数 |           |           |           |          |         |
|----------|------------|---------|-----------|-----------|-----------|----------|---------|
|          |            | 1 人     | 2～3人      | 4～5人      | 大 勢       | とくにない    | 不 明     |
|          |            | 人 (%)   | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)    | 人 (%)   |
| 全体 (708) |            | 3( 0.4) | 104(15.0) | 137(19.7) | 435(62.7) | 15( 2.2) | 14( 一)  |
| 男性 (345) |            | 1( 0.3) | 44(13.1)  | 70(20.9)  | 212(63.3) | 8( 2.4)  | 10( 一)  |
| 女性 (363) |            | 2( 0.6) | 60(16.7)  | 67(18.7)  | 223(62.1) | 7( 1.9)  | 4( 一)   |
| 年 齢 別    | 70歳以上75歳未満 | 1( 0.3) | 48(13.2)  | 65(17.9)  | 241(66.2) | 3( 0.8)  | 6( 1.6) |
|          | 75歳以上80歳未満 | 2( 0.9) | 32(14.0)  | 45(19.7)  | 138(60.3) | 10( 4.4) | 2( 0.9) |
|          | 80歳以上95歳未満 |         | 24(21.4)  | 26(23.2)  | 54(48.2)  | 2( 1.8)  | 6( 5.4) |

場所での回答であることのため、単純な比較はできないが、ちなみに総務庁調査<sup>8)</sup>(平成2年)の60歳代(70歳未満を対象とした調査)の友人数は、「4～5人」と答えたものが27.5%、「1～3人」が25.1%であり、青梅調査の対象者のほうが友人数が多い。

#### (4) 近所の人との交流(表3-1, 表3-2)

高齢者の近隣とのつきあいの調査にあたって、単なる挨拶を除外するために「会って親しく話をする」回数について質問を設けた。

##### 1) 会って親しく話をする回数

近所の人と「毎日」会って親しく話している人は48.7%(男性43.8%, 女性53.4%)とかなり高い。

国際比較調査「老人の生活と意識」<sup>9)</sup>の日本資料によると、近所の人と「週に1回以上」会って話をするものの比率は68.3%(男性63.2%, 女性74.7%)であるのに対して、青梅調査では82.6%(男性78.9%, 女性86.1%)と男女ともかなり高い。ちなみに国際比較の他の国の結果をみると、タイ73.0%, アメリカ91.3%, デンマーク81.8%, イタリア79.3%であり、青梅調査の数値はデンマーク、イタリアに近い。

「ほとんどない」者の比率は国際比較では31.5%で日本が最も高いが、青梅調査では5.2%であり、アメリカの6.1%に近い。青梅調査の対象者の「近所づきあい」が非常に密接であることがわかる。配偶者の有無による差はみられなかった。

i) 同・別居による差: 男性では同・別居による差は大きくないが、女性では別居のもので「毎日」と答えたものが70.8%であるのに対して、同居のものは51.2%であり、別居のもののほうが近所の人と会って話す率が高い。

ii) 居住時期による差: 「週に1回以上」の頻度をみると戦前からのもの86.2%, 昭和20～39年からのもの

81.8%, 昭和40～59年からのもの78.2%, 昭和60年以降のもの70.0%であり、新しい住民も交流度が高いが、古くからの住民がなおいっそう、近所の人との交流が多い。

##### 2) 家に上がってお茶を飲む

近所づきあいで、お互いに家に上がってお茶を飲むような関係はかなり親しいつきあいであるが、青梅調査では全体の25.0%(男性21.7%, 女性28.1%)が「週に2, 3回」はそのようなつきあい方をしていた。「毎日」のものも15.8%であり、男性10.7%, 女性20.7%で、女性のほうが比率が高い。「週1回以上」では53.5%(男性45.2%, 女性61.5%)となる。

i) 配偶者の有無による差: 「週1回以上」の交流をみると、男性では有配偶者42.8%, 無配偶者60.0%, 女性では有配偶者61.8%, 無配偶者59.6%である。男性の無配偶者は別居子や友人との交流については孤立傾向がみられたが、近隣の人との密接なつきあいがそれを補っているのであろうか。女性では配偶者の有無による差はほとんどない。同・別居による差はみられなかった。

##### 3) もののやりとりの有無

全体では84.6%の人がもののやりとりを「する」と答えているが性差や年齢による差はない。

i) 配偶者の有無による差: 男性では差はみられないが、女性では無配偶者のほうが品物のやりとりを「しない」ものが多く、15.1%であるが、有配偶者は7.3%である。

##### 4) 品物の預かり合い

全体でみると、品物の預かり合いをするものは57.3%であり、性別では男性53.3%, 女性61.2%とやや女性が多い。「しない」と答えたものは29.8%(男性33.3%, 女性26.4%)である。

総務庁の調査<sup>8)</sup>は、隣近所の助け合いについてくあて

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究 (第2報)

表 3-1. 近所の人との交流

| 近所の人との交流    |           |           |           |          |          |          |           |          |          |          |       |       |       |  |  |
|-------------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-------|-------|-------|--|--|
|             | 毎 日       | 週 2～3 回   |           | 週 1 回    | 月 1 回    |          | 年に数回      |          | ほとんどない   |          | その他   |       | 無回答   |  |  |
|             |           | 人 (%)     | 人 (%)     |          | 人 (%)    | 人 (%)    | 人 (%)     | 人 (%)    | 人 (%)    | 人 (%)    | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |  |  |
| 会って話をする     |           |           |           |          |          |          |           |          |          |          |       |       |       |  |  |
| 全体 (708)    | 345(48.7) | 184(26.0) | 56( 7.9)  | 36( 5.1) | 17( 2.4) | 8( 1.1)  | 37( 5.2)  | 2( 0.3)  | 23( 3.2) |          |       |       |       |  |  |
| 男性 (345)    | 151(43.8) | 92(26.7)  | 29( 8.4)  | 18( 5.2) | 12( 3.5) | 5( 1.4)  | 20( 5.8)  | 1( 0.3)  | 17( 4.9) |          |       |       |       |  |  |
| 女性 (363)    | 194(53.4) | 92(25.3)  | 27( 7.4)  | 18( 5.0) | 5( 1.4)  | 3( 0.8)  | 17( 4.7)  | 1( 0.3)  | 6( 1.7)  |          |       |       |       |  |  |
| 男性          | 未婚の子と同居   | 23(39.7)  | 17(29.3)  | 1( 1.7)  | 5( 8.6)  | 3( 5.2)  | 2( 3.4)   | 4( 6.9)  |          | 3( 5.2)  |       |       |       |  |  |
|             | 既婚の子と同居   | 87(47.0)  | 47(25.4)  | 19(10.3) | 6( 3.2)  | 5( 2.7)  | 1( 0.5)   | 10( 5.4) | 1( 0.5)  | 9( 4.9)  |       |       |       |  |  |
|             | 未・既婚の子と同居 | 8(38.1)   | 8(38.1)   | 2( 9.5)  | 1( 4.8)  |          | 1( 4.8)   | 1( 4.8)  |          |          |       |       |       |  |  |
|             | 別居        | 27(37.5)  | 18(25.0)  | 7( 9.7)  | 6( 8.3)  | 4( 5.6)  | 1( 1.4)   | 4( 5.6)  |          | 5( 6.9)  |       |       |       |  |  |
|             | 不明        | 2( 100)   |           |          |          |          |           |          |          |          |       |       |       |  |  |
| 女性          | 未婚の子と同居   | 17(50.0)  | 9(26.5)   | 2( 5.9)  | 3( 8.8)  |          |           | 2( 5.9)  |          | 1( 2.9)  |       |       |       |  |  |
|             | 既婚の子と同居   | 128(50.2) | 66(25.9)  | 22( 8.6) | 12( 4.7) | 5( 2.0)  | 2( 0.8)   | 14( 5.5) | 1( 0.4)  | 5( 2.0)  |       |       |       |  |  |
|             | 未・既婚の子と同居 | 5(50.0)   | 2(20.0)   |          | 2(20.0)  |          | 1(10.0)   |          |          |          |       |       |       |  |  |
|             | 別居        | 34(70.8)  | 11(22.9)  | 2( 4.2)  |          |          |           | 1( 2.1)  |          |          |       |       |       |  |  |
|             | 不明        | 1(33.3)   | 1(33.3)   |          | 1(33.3)  |          |           |          |          |          |       |       |       |  |  |
| 居住時期        | 戦前～       | 161(47.2) | 106(31.1) | 27( 7.9) | 12( 3.5) | 6( 1.8)  | 6( 1.8)   | 17( 5.0) |          | 6( 1.8)  |       |       |       |  |  |
|             | 1945～1964 | 89(53.9)  | 29(17.6)  | 17(10.3) | 12( 7.3) | 4( 2.4)  |           | 6( 3.6)  |          | 8( 4.8)  |       |       |       |  |  |
|             | 1965～1984 | 75(46.9)  | 40(25.0)  | 10( 6.3) | 7( 4.4)  | 7( 4.4)  | 2( 1.3)   | 10( 6.3) | 2( 1.3)  | 7( 4.4)  |       |       |       |  |  |
|             | 1985～     | 14(46.7)  | 6(20.0)   | 1( 3.3)  | 4(13.3)  |          |           | 4(13.3)  |          | 1( 3.3)  |       |       |       |  |  |
| 家にながってお茶を飲む |           |           |           |          |          |          |           |          |          |          |       |       |       |  |  |
| 全体 (708)    | 112(15.8) | 177(25.0) | 90(12.7)  | 92(13.0) | 67( 9.5) | 27( 3.8) | 103(14.5) | 2( 0.3)  | 38( 5.4) |          |       |       |       |  |  |
| 男性 (345)    | 37(10.7)  | 75(21.7)  | 44(12.8)  | 52(15.1) | 34( 9.9) | 20( 5.8) | 55(15.9)  | 1( 0.3)  | 27( 7.8) |          |       |       |       |  |  |
| 女性 (363)    | 75(20.7)  | 102(28.1) | 46(12.7)  | 40(11.0) | 33( 9.1) | 7( 1.9)  | 48(13.2)  | 1( 0.3)  | 11( 3.0) |          |       |       |       |  |  |
| 男性          | 有配偶       | 31(10.4)  | 59(19.9)  | 37(12.5) | 49(16.5) | 33(11.1) | 19( 6.4)  | 48(16.2) |          | 21( 7.1) |       |       |       |  |  |
|             | 無配偶       | 5(11.1)   | 15(33.3)  | 7(15.6)  | 3( 6.7)  |          | 1( 2.2)   | 7(15.6)  | 1( 2.2)  | 6(13.3)  |       |       |       |  |  |
| 女性          | 有配偶       | 22(17.9)  | 34(27.6)  | 20(16.3) | 16(13.0) | 13(10.6) | 4( 3.3)   | 12( 9.8) | 1( 0.8)  | 1( 0.8)  |       |       |       |  |  |
|             | 無配偶       | 47(20.9)  | 62(27.6)  | 25(11.1) | 24(10.7) | 20( 8.9) | 3( 1.3)   | 34(15.1) |          | 10( 4.4) |       |       |       |  |  |

表 3-2. 近所の人との交流

|          |            | 近所の人との交流   |            |           |
|----------|------------|------------|------------|-----------|
|          |            | す る        | しない        | 不 明       |
|          |            | 人 (%)      | 人 (%)      | 人 (%)     |
| 物のやりとり   |            |            |            |           |
| 全体 (708) |            | 599(84. 6) | 85(12. 0)  | 24( 3. 4) |
| 男性 (345) |            | 294(85. 2) | 39(11. 3)  | 12( 3. 5) |
| 女性 (363) |            | 305(84. 0) | 46(12. 7)  | 12( 3. 3) |
| 男性       | 有配偶        | 254(85. 5) | 32(10. 8)  | 11( 3. 7) |
|          | 無配偶        | 38(84. 4)  | 6(13. 3)   | 1( 2. 2)  |
| 女性       | 有配偶        | 111(90. 2) | 9( 7. 3)   | 3( 2. 4)  |
|          | 無配偶        | 183(81. 3) | 34(15. 1)  | 8( 3. 6)  |
| 年齢別      | 70歳以上75歳未満 | 315(86. 5) | 41(11. 3)  | 8( 2. 2)  |
|          | 75歳以上80歳未満 | 194(84. 7) | 23(10. 0)  | 12( 5. 2) |
|          | 80歳以上95歳未満 | 88(78. 6)  | 20(17. 9)  | 4( 3. 6)  |
| 品物の預かりあい |            |            |            |           |
| 全体 (708) |            | 406(57. 3) | 211(29. 8) | 91(12. 9) |
| 男性 (345) |            | 184(53. 3) | 115(33. 3) | 46(13. 3) |
| 女性 (363) |            | 222(61. 2) | 96(26. 4)  | 45(12. 4) |

にできそう〉、〈あてにできそうにない〉、〈わからない〉の三つの選抜肢を用いている。結果をみると、届けものの預かりや伝言は〈あてにできそう〉が84.1%の高率を占めているが、青梅調査の品物の預かり合いを実際に「する」と答えたものの比率との差が大きい。青梅市では三世同居が多いため、留守にする家庭が少ないためかもしれない。

#### 5) 家族以外で親しくしている人(表4)

高齢者の交友の範囲を知るために、子どもとその家族以外で親しくしている人を、近所の人、学校時代の友だち、職場の友だち、老人クラブの友だち、趣味で知りあった友だち、自分のきょうだい、親戚、その他の八つの選抜肢から複数選択で選んでもらった。第1位を占めたのは「老人クラブの友だち」で76.1%であるが、これは老人クラブの仲間が集まっている場での調査であるということも影響していると思われるが、ゲートボールや民謡、踊りなどの老人クラブでの活動が、各地の高齢者の間で多くの参加者を集めていることを考えると、老人クラブの友人が高順位にくることは当然と考えられる。「老人クラブの友だち」とほぼ同じぐらいの比率を占めるのが第2位の「近所の人」の74.3%である。次が「親戚」50.3%である。第4位が「趣味で知りあった友だち」で43.4%、第5位が「自分のきょうだい」42.2%、

第6位が「学校時代の友だち」24.7%、第7位が「職場の友だち」15.3%である。職場の友だちについては性差があり、男性が21.7%であるのに対して、女性は9.1%である。

「老人の生活と意識」についての国際比較調査<sup>2)</sup>は友人と知り合ったきっかけを聞いている。これは交友範囲を知る資料となるが、日本の調査結果は、第1位「近所の人」57.2%、第2位「職場の友だち」30.7%、第3位「学校時代の友だち、幼友だち」で24.7%であった。青梅調査においては「近所の人」の比率がかなり高いのが特徴的である。

i) 配偶者の有無による差：男性では配偶者の有無にかかわらず3位までは、老人クラブの友人、近所の人、親戚と共通しているが、有配偶者では第4位に「趣味で知り合った友だち」がくるのに対して、無配偶者では「自分のきょうだい」がきている。女性では有配偶者が老人クラブの友人、近所の人、趣味で知り合った友だち、親戚という順位であるが、無配偶者では近所の人、老人クラブの友人、親戚、きょうだいの順である。男女とも無配偶者は自分のきょうだいを親しくしている人のなかにあげるものが多い。

ii) 健康状態による差：趣味で知り合った友だちをあげるものは、健康状態によって差がみられる。健康状態

表 4. 家族以外で親しくしている人

|          | 家族以外で親しくしている人 |           |           |           |           |           |           |         |         |       |
|----------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|-------|
|          | 近所の人          | 学生時代の友達   | 職場の友達     | 老人クラブの友達  | 趣味で知った友達  | 自分のきょうだい  | 親戚        | その他     | 無回答     |       |
|          | 人 (%)         | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)     | 人 (%)   | 人 (%)   | 人 (%) |
| 全体 (708) | 526(74.3)     | 175(24.7) | 108(15.3) | 539(76.1) | 307(43.4) | 299(42.2) | 356(50.3) | 31(4.4) | 14(2.0) |       |
| 男性 (345) | 243(70.4)     | 96(27.8)  | 75(21.7)  | 258(74.8) | 139(40.3) | 134(38.8) | 176(51.0) | 20(5.8) | 9(2.6)  |       |
| 女性 (363) | 283(78.0)     | 79(21.8)  | 33(9.1)   | 281(77.4) | 168(46.3) | 165(45.5) | 180(49.6) | 11(3.0) | 5(1.4)  |       |
| 男性       | 214(72.1)     | 82(27.6)  | 67(22.6)  | 220(74.1) | 120(40.4) | 113(38.0) | 150(50.5) | 16(5.4) | 9(3.0)  |       |
| 有配偶      |               |           |           |           |           |           |           |         |         |       |
| 無配偶      | 28(62.2)      | 14(31.1)  | 6(13.3)   | 36(80.0)  | 17(37.8)  | 20(44.4)  | 24(53.3)  | 4(8.9)  |         |       |
| 女性       | 100(81.3)     | 31(25.2)  | 8(6.5)    | 100(81.3) | 63(51.2)  | 60(48.8)  | 62(50.4)  | 3(2.4)  |         |       |
| 有配偶      |               |           |           |           |           |           |           |         |         |       |
| 無配偶      | 171(76.0)     | 44(19.6)  | 24(10.7)  | 170(75.6) | 100(44.4) | 101(44.9) | 108(48.0) | 8(3.6)  | 5(2.2)  |       |
| 健康状況別    |               |           |           |           |           |           |           |         |         |       |
| たいへんよい   | 73(74.5)      | 25(25.5)  | 14(14.3)  | 74(75.5)  | 43(43.9)  | 39(39.8)  | 44(44.9)  | 5(5.1)  | 2(2.0)  |       |
| ふつう      | 342(75.2)     | 126(27.7) | 74(16.3)  | 357(78.5) | 199(43.7) | 202(44.4) | 244(53.6) | 17(3.7) | 8(1.8)  |       |
| 弱い       | 40(74.1)      | 7(13.0)   | 6(11.1)   | 37(68.5)  | 16(29.6)  | 17(31.5)  | 21(38.9)  | 23(5.6) | 2(3.7)  |       |

表 5. 現在のおつきあいについて

|          | 現在のおつきあいについて |           |        |        |
|----------|--------------|-----------|--------|--------|
|          | 満足           | まあ満足      | やや不満   | 不満     |
|          | 人 (%)        | 人 (%)     | 人 (%)  | 人 (%)  |
| 全体 (708) | 537(75.8)    | 152(21.5) | 4(0.6) | 3(0.4) |
| 男性 (345) | 244(70.7)    | 90(26.1)  | 1(0.3) | 2(0.6) |
| 女性 (363) | 293(80.7)    | 62(17.1)  | 3(0.8) | 1(0.3) |
| 男性       | 207(69.7)    | 79(26.6)  | 1(0.3) | 2(0.7) |
| 有配偶      |              |           |        |        |
| 無配偶      | 35(77.8)     | 10(22.2)  |        |        |
| 女性       | 96(78.0)     | 25(20.3)  |        |        |
| 有配偶      |              |           |        |        |
| 無配偶      | 186(82.7)    | 34(15.1)  | 2(0.9) | 1(0.4) |

が「たいへんよい」ものは43.9%、「ふつう」のものは43.7%であるのに対して、「弱い」と答えたものは29.6%である。

#### (6) 現在のおつきあいについての満足感(表5)

青梅調査では高齢者のつきあいの対象として別居子、親戚、親しい友人、近所の人をとりあげたが、このなかで最も接触の頻度が高かったのが近所の人である。「会って親しく話をする」ことについて、「毎日」と答えたものの比率をみると、近所の人48.7%、親しい友人21.5%、別居子11.7%、親戚4.8%であり、「週に1回以上」でみると、近所の人82.6%、親しい友人64.6%、別居子38.6%、親戚19.7%となる。近隣とのつきあいの親密さが印象づけられる。

現在のおつきあいについてどの程度満足しているかを聞いたところ、77.2%のものが「満足している」と答えている。「まあ満足している」ものは21.8%、「やや不満である」は0.6%、「不満である」は0.4%である。「満足している」に「まあ満足」を加えると99.0%となり、ほとんどのものが満足しているといえる。性差および年齢層による差はない。

i) 配偶者の有無による差:「満足」と答えたものについてみると、男性では有配偶者が69.7%、無配偶者が77.8%であり、無配偶者のほうが満足のもの比率が高い。女性では有配偶者が78.0%、無配偶者が82.7%であり、差は男性ほどではないが無配偶者のほうが「満足」と答えるものがやや多い。同・別居による差はみられなかった。

この調査結果は、老人クラブに積極的に参加している高齢者の回答であること、老人クラブの仲間と同席の場で行った調査であることを考慮にいれなければならないが、現在の東京都青梅市の高齢者の対人関係についての概要を知ることができる。青梅市の高齢者の近隣や友人との親密な交流は、これから高齢者の対人関係の望ましいあり方のひとつと考えられるが、長い歴史をもつ青梅市での高齢者の交友関係と新しく発達した地域でのそれとは当然異なるであろう。

#### 4. 結 論

高齢者が安心して家庭や地域で生活するための重要な条件の一つに、高齢者をとりまく人間関係の豊かさ、温かさがある。しかし、都市化の進行とともに、家庭や地域で孤立する高齢者の増加が懸念されている。

青梅調査の高齢者の対人関係における顕著な特徴は、近隣の人との交流の親密さである。総務庁の国際比較調

査<sup>5)</sup>によると、近所の人との交流は日本の老人(60歳以上)が最も少なく、近所の人と毎日交流のある人の比率は17.5%であるのに対して、青梅調査の高齢者では48.7%であり、全国サンプルの2.8倍である。しかも週に1回以上、お互いの家に上がってお茶を飲んだりするような親密なつきあい方をするものが半数を超えている。

近所の人とのつきあいの親密さは、調査対象者の約半数が戦前からの居住者であり、1970年以降の転入者は2割強にすぎないこと、青梅市は伝統的に近隣との相互扶助の結びつきが強いことによると考えられる。

調査した対人関係のうちで、つぎに交流の頻度が高いのは親しい友人、次が別居子、親戚の順であった。

親しい友人との交流についてであるが、「友人は大勢いる」と答えたものが63%もあり、週に1回以上会って話をしているものが65%にもぼっている。友人も古くからの友人であり、地理的に近接した距離に住んでいると思われる。近所の人とのつきあいも友人とのつきあいも男性より女性のほうが頻度が高い。

別居子との交流については青梅調査の対象者は全国調査の対象者よりも交流の頻度がやや低い。調査対象者の8割は子どもと同・隣居しているものであるが、別居子との交流は同・隣居か別居かによる差はみられない。別居子との交流はむしろ高齢者の性別によって、配偶者の有無による差がみられるのが特徴である。

無配偶男性は別居子と会って話したり、電話をかけたりの頻度も親戚との電話も少なく、孤立化傾向がみられる。女性は子どもとの情緒的な結びつきが男性に比べて強いので、配偶者の有無が子どもとの交流の頻度に影響しないと考えられるのに対して、男性の場合は配偶者が子どもとの交流の仲介の役割を果たしているのかもしれない。

しかし、無配偶男性は有配偶男性より近所の人と「家に上がってお茶を飲む」ような親しいつきあいをするものが多い。近隣との親密なつきあいが別居子や親戚との交流の少なさを補っているのではないと思われる。

大都市のコミュニティがその機能を失いつつあると考えられる今日、青梅市の高齢者が享受している対人関係をみると、コミュニティが生きて機能しているという感を受ける。しかしながら、青梅市も都市化の波が押し寄せつつあり、人々の意識や家族の住まい方、つきあい方も今後徐々に変わることが予想される。現在、変化の過渡期にある青梅市の高齢者の対人関係を今後5年、10年たって調査したときに、どのような変化がみられるのであろうか。

## 東京多摩西部地区の高齢者の生活に関する研究（第2報）

つぎに青梅調査の結果が示唆してくれるものについて考えたい。現在、全国的にみても子ども世帯との同居が多数派を占めているが、今後は家族観の変化、子どもの側の経済的条件や職業の関係で同居率は低下するであろう。また、高齢者の側でも、子どもとは良い関係を保ちながらも、距離をおいて自立した暮らしをするライフスタイルへの志向が芽生えてきている。老後を、子どもや孫に囲まれておくる暮らしよりも、夫婦で、あるいは友人と暮らすことを望む人々が少しずつ増えているともいわれる。

定年後や子育て後の長い年月を充実したものとするためには家族との関係も重要であるが、地域の間人関係の果たす役割が大きい。青梅市の高齢者の地域での交流の頻度の高さは、地区の集会所が高齢者が歩いて行けるところにあり、気軽に利用できることも大いに寄与していると思われる。これからの高齢者および高齢者を取り巻く人々は、変化しつつある地域の中で、新しいコミュニティを作り出す工夫をしていかなければならないであろ

う。

## 引用文献

- 1) 大竹美登利, 石川尚子, 大久保みたみ, 大関政康, 唐沢恵子, 川端博子, 斉藤浩子, 高崎禎子, 武田紀久子, 林 隆子: 家政誌, 42, 1019 (1991)
- 2) 青梅市教育委員会: 青梅市の民俗, 青梅市教育委員会, 東京 (1975)
- 3) 武田紀久子, 大久保みたみ, 高崎禎子, 唐沢恵子, 石川尚子, 大関政康, 大竹美登利, 川端博子, 斉藤浩子, 林 隆子: 家政誌, 43, 3 (1992) 印刷中
- 4) 林 隆子, 川端博子, 石川尚子, 大久保みたみ, 大関政康, 大竹美登利, 唐沢恵子, 斉藤浩子, 高崎禎子, 武田紀久子, 山形昭衛: 家政誌投稿中
- 5) 総務庁長官官房老人対策室編: 老人の生活と意識—国際比較調査結果報告書, 中央法規出版, 東京, 13~17, 28~33 (1987)
- 6) 岡村清子: 社会老年学, 19, 28 (1984)
- 7) 前田尚子: 社会老年学, 28, 58 (1988)
- 8) 総務庁長官官房老人対策室編: 長寿社会と男女の役割・意識, 大蔵省印刷局, 東京, 20~23 (1990)